

親子20人が手帳作り

1/17 新 わ みんなの学校で防災イベント

和歌山

地震に備え「校」で開かれ、約20人で自分だけの防災手帳を作った。

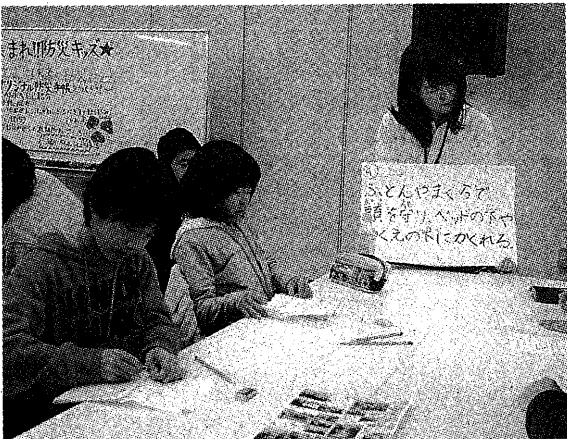
防災キッズ★めざせ！ 未来の防災マスター〜オリジナル防災手帳をつくらう！」が12日、和歌山市のぶらくり丁商店街内「みんなの学

校」で開かれ、約20人の親子らが参加した。県内の小中高校では、防災教育活動を行う。和歌山大学防災教育チーム「SAZANKA」の6人が指導。通学時や就寝時などさまざまな場面での地震発生時の

対処方法を寸劇クイズで紹介した。クイズを通じて子どもらは、避難方法や対応策などを手帳に書き込み、防災手帳を完成させた。

防災手帳を作った、和太付属小学校4年生の松田彩華さん(10)は「地震が起きたとき、自分がどう行動すればいいか学べてよかった」、SAZANKAの代表、塩崎萌さん(20)は「小さい頃から防災についてふれてもらい、これからの災害に備えて役立ててほしい」と話していた。

この他、地域の避難地図を使って、自宅周辺で避難場所に指定されている施設などを確認した。



防災手帳を作る子どもたち